

==== 衝撃の新刊 話題沸騰 ====

いま率直に語りつくす
戦後「保守」の自己欺瞞・時代への警鐘
祖国日本再建の指針
保守よ、日本よ、 正道にかえれ！ よみがえれ！

『保守の怒り』

— 天皇・戦争・国家の行方 —

対談 西尾幹二 × 平田文昭

刊行 草思社 予価 1800 円 11 月下旬発売予定

混乱・荒廃・騒擾、そして戦争の時代が来ます
日本国と皇室は、昭和 20 年以来の、存亡の危機に立っています
その存続と再生は保守にかかっています
しかしその「保守」がいま自滅しようとしています
平成 21 年夏の衆議院議員選挙後に、「保守」にただようこの虚脱感
それは「保守」が空虚だったことの証明です
「保守」とは政治家ばかりではなく言論人・運動家も含みます
冷戦終了後のフィリピンのマルコス政権のように落ちぶれたのがいまの「保守」です
こうなったのは、朝日・NHK・日教組のせいでしょうか？
いいえ
「保守」は「反」のみが生甲斐だった昔の社会党のようになってはいませんか
「保守」の芯はいつしか溶けさり
思想も、時代への対応力も、実務能力も失い
「保守」はいつしか愛国ゴッコ利権となり
知も智も、信も誠も哀も愛も、断も勇も、すべてを亡くしていたから
虚名と虚勢と虚構と以外のすべてを無くしていたから
「保守」はここまで無力化し、いま崩落しつつあるのです
「ご皇室ありがたや念仏」を唱えていても問題は解決しません
「朝鮮台湾にはいいこともした史観」に酔っていても日本の明日は切り拓けません
「保守」が隠しても世間は知ります
左翼に道をつけてきたのは、自称保守なのです！
保守の覚醒と再生なくして、日本の生存と再生はありません
「保守」よ、娑婆に出よう！ 現代の現実生きよう！
衝撃の言葉、真実の言葉、魂の言葉に満ちた

衝撃の対談、この秋 11 月刊行です